

教育と文化

みなで
えよう
考えよ
人権・同和問題
No. 233

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

わたしの色、あなたの色

「肌色ってどんな色?」。みなさんは、どのようなイメージをお持ちですか。以前はクレヨンや色鉛筆に『はだいろ』がありました。しかし、「肌の色を一色に限定するのは、異なる肌の色への差別につながる」という意見があり、日本のメーカーは『ペールオレンジ』や『うすだいい色』に変更しました。

一方で、ドイツ製の『スキントーン(肌色)』という『肌色色鉛筆セット』は、様々な人の肌の色をイメージした12色で構成されています。まるで「世界にはいろんな肌の人がいるんだよ」と教えてくれているようです。

日本では、子どものころから人の肌の色は『はだいろ』という固定観念を持った人も多いのではないのでしょうか。もちろん、世界中の多様な人種の肌の色を、12色で表現することはできません。ですが、

人種の多様性を考えるうえで、ドイツは日本より一歩も二歩も先を行っているようです。肌の色は人それぞれなのだと思えて考えさせられます。

さて、近年『ヘイトスピーチ』が深刻な社会問題になっています。ヘイトスピーチは、人種や出身国など自分では変えることのできない事柄について、不当に差別的な言動をするものであり、絶対に許されない人権侵害行為です。平成28年には、特定の人種や民俗などへの憎悪をおおるヘイトスピーチについて、解消に向けた取り組みを推進する法律が施行されました。

肌の色や言葉、国籍が違って、私たちは皆、同じ血が流れた人間です。国を超えてお互いの違いを認め合い、相手に寄り添うこと。そして自分の命、相手の命を、同じように大事にすることが、偏見や差別の解消につながります。

郷土の文化財

伊万里湾の歴史シリーズ⑧

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 3186

明治時代の伊万里湾

軍港誘致運動

今日は、明治時代の伊万里湾に着目して紹介します。

明治時代、富国強兵策を推し進めていた政府は、九州の守りを強化するために、海軍の司令部・鎮西鎮守府を設置し、軍港を開くことにしました。海軍が実施した調査の結果、長崎県の大村湾や佐世保湾に並び、伊万里湾も候補地の一つに挙げられました。軍港が開かれると、周辺に軍関連の施設も建設されることになり、人口の増加や、経済や文化が著しく発展していくことにつながると、熱心に誘致運動が行われました。

しかし、伊万里湾は、軍艦が港に出入りするための水路や港湾などの自然条件が良くないという理由で、佐世保に軍港を設置することが決定し、残念ながらこ

の誘致運動が実を結ぶことはありませんでした。

松島町にある城山公園の一角に、この誘致運動に尽力した人々の名を刻んだ『碑文塔』が建っています。

また、その隣には、海軍の測量調査の際に山代町小島沖に停泊していた、軍艦『比叡』の艦内で危篤になり、亡くなった、笠間廣盾大佐の招魂碑も建っています。



↑ 城山公園にある碑文塔(左)と笠間廣盾大佐の招魂碑